

## 令和5年度 遠野西中学校区の取組の方針→総括（概要版）

遠野西中学校区研究員部会

## 1 「まちづくり指標」達成に向けて 本学区で特に課題（重点）とする【大領域・観点別】（中領域）

国語	小2	【話すこと・聞くこと】（話題を決め、伝える内容を選ぶ）
	小3	【読むこと】（話の内容の大体をとらえる）（重要な語や人物の行動をとらえる）
	小4	【話すこと・聞くこと】（情報を選び構成を考えて話す）（話や意見の背景を考え話し合う）
	小5	【読むこと】（主題や構成を読み取る）（考えや感想をもって伝え合う）
	小6	【話すこと・聞くこと】（情報を選び考えて話す）
	中1	【書くこと】（文章を整え感想や意見を伝え合う）（送り仮名を含む漢字の書き）
	中2	【読むこと】全般 【書くこと】（目的に応じて書く）（漢字の書き）
	中3	【話すこと・聞くこと・読むこと】全般 【書くこと】（漢字の書き）（構成を考えて書く）
算数・ 数学	小2	【数と計算】（数の構成と表し方） 【測定・データの活用】（長さ、広さ、かさ）
	小3	【数と計算】（数の構成と表し方） 【測定・データの活用】（長さ、かさ）
	小4	【数と計算】（□を用いた式、分数） 【測定・データの活用】（時刻、時間）
	小5	【数と計算】（かっこ用いた式、分数） 【図形】（立方体、直方体）
	小6	【数と計算】（整数の性質） 【変化と関係】（単位量当たり、速さ）
	中1	【図形】（立体図形） 【データの活用】（データの考察）
	中2	【数と式】全般 【図形】（空間図形） 【データの活用】（ヒストグラムや相対度数）
	中3	【全領域】全般 *特に【データの活用】（四分位範囲や箱ひげ図） 【関数】（一次関数）
理科	小6	（流れる水の働き土地の変化）（物の種類や水の温度と溶ける量）
	中1	【粒子】（物の温まり方や体積） 【エネルギー】（電気の働きと利用）
	中2	【身近な物質現象】（光りと音） 【身の回りの物質】全般 【大地の成り立ちと変化】（火成岩）
	中3	【化学変化と原子・分子】全般 【植物と動物の体のつくりと働き】全般
社会	小6	（日本の水産業）（日本の工業地帯の分布や特色）
	中1	【公民的分野】（国際連合の仕組みと働き）（国民主権と政治の仕組み）
	中2	【原始から古代の日本】全般 【世界の様々な地域】（アジア州）（ヨーロッパ州、アフリカ州）
	中3	【日本の諸地域】全般 【近世の日本】全般 【近代の日本】欧米の進出と日本への影響
英語	中2	【書くこと】全般 【聞くこと】（質問やアナウンスを聞き、応じる）（まとまりのある英語を聞き取る）
	中3	【全領域】全般 *特に【書くこと】全般

## 2 前年度の「成果（○）と課題（●）」

○視点1と2において、目指す児童・生徒像を低学年・中学年・高学年・中学生と発達段階に応じて設定したことにより、より具体的なイメージをもって指導にあたることができた。

○導入場面において、単元の見通しを示したことやゴールを明確にすることによって、学習意欲の向上を図ることができた。

○話し合いの視点を明確に与えたことと思考の時間を確保したことにより、学びを深める話し合いができてきた。

○振り返りの視点を明確にすることによって、「どうすれば、何ができた」や「○○から○○がわかった」など、学習の成果を実感できる振り返りができた。

●話し合いのさせ方。伝えるだけでなく双方向で話す、聞くことが必要。聞く力も鍛えていく必要があること。

●複式学級における学び合いや話し合いのさせ方、預け方において、児童生徒に見通しを持たせ主体的な

学習につなげていくこと

### 3 今年度学力向上取組の方向性

#### (1) 授業改善の2つの視点と目指す児童生徒像について

**「学習活動を通して、自分の考えをもち、自らの言葉で表現する児童・生徒」**

	視点1 学習意欲の向上	視点2 言語活動の充実
中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの気づきや考え、学習経験から、主体的に学習課題を見つけ、単元を通した見通しをもちながら、進んで課題解決に取り組もうとしている。</li> <li>・授業で分かったことやできたことなどを振り返り、達成感をもち、次時の課題解決への意欲をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、学びを広めたり深めたりし、よりよい考えにたどりつこうとしている。</li> <li>・理由や根拠を明らかにし、筋道を立てて自分の言葉で分かりやすく書いたり伝えたりしている。</li> </ul>
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体や単位時間の見通しをもち、学習経験から学習課題を見つけ、主体的に学ぼうとしている。</li> <li>・授業で分かったことやできたことなど振り返り、達成感をもち、次時への意欲をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと友だちの考えのよさに気づき、よりよい考えにたどりつこうとしている。</li> <li>・理由や根拠を明らかにし、分かりやすく書いたり伝えたりしている。</li> </ul>
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体や単位時間の見通しをもち、学習経験から学習課題を見つけ、意欲的に学ぼうとしている。</li> <li>・授業で分かったことやできたことなどを振り返り、達成感をもち持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと友だちの考えをくらべて聞こうとし、よりよい考えにたどりつこうとしている。</li> <li>・伝えたいことを明らかにし、相手につたわるように書いたり伝えたりしている。</li> </ul>
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題がわかり、進んで学ぼうとしている。</li> <li>・授業で分かったことやできたことを振り返ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと友だちの考えの似ているところ・違うところを聞こうとしている。</li> <li>・伝えたいことを考え、ことばを選んだり自分の考えを表したりしている。(書く、話す)</li> </ul>

#### (2) 次年度の重点取組

～学びの連続性～

- a 日常の授業での「学び」
- b 日常の家庭学習での「学び」
- c 長期休業の課題取組での「学び」

##### ① 視点1 「学習意欲の向上」について

- ア 単元全体・単位時間の見通しをもたせ、学習課題やゴールを明確にし、主体的な学習につなげていく。(a)
- イ 学習方法、学習内容、学ぶ態度など成果を実感できる振り返りを工夫する。(a, b)

##### ② 視点2 「言語活動の充実」について

- ア 「何を」「どのように」話し合わせるかを明確にするとともに、聞く、話すなど双方向の学び合い活動の場を設定する。(a)
- イ 根拠・理由を持って書いたり、話したりするために、自力解決やまとめなどで書く活動を取り入れる。(a, b)

##### ③ 「UAをゼロに！」について

- ア NRT、CRT の分析を通して、児童生徒の実態を職員全員で共通理解し、弱点補強と授業改善に生かす。(a, b)
- イ アシストシート・ICTを活用し個別最適化された課題を提示することでつまづきに対応する。(c)

## 4 具体的実践（授業交流会・授業実践交流会・校内研究会等について）

## (1) 今年度の主な公開授業等

- ① 第1回授業交流会（R05. 5. 25） 遠野西中学校
- ② 第2回授業交流会（R05. 11. 10） 鱒沢小学校（国語）
- ③ 授業実践交流会（R05. 10. 6） 達曽部小学校（生活、社会）

ここから下については、これからの実践や調査をもとに加筆していきます。

## (2) 実践をとおして明らかになったこと

① **視点1** 「学習意欲の向上」について（手立ての検証）

- ア 学習課題を児童生徒が設定したり、単元や単位時間のゴールを示したりすることで、児童生徒の学習意欲が高まり、見通しをもって学習に取り組むことができている。
- イ 学びの成長を実感できる振り返りを行うことで、次時の学習への意欲の高まりも見られた。

② **視点2** 「言語活動の充実」について（手立ての検証）

- ア 学び合いの視点を明確にしたり、理由や根拠を聞きあったりする学び合いをとおして学びが深まってきている。
- イ 複式指導で間接指導時の適切な支援（板書の工夫、リーダーの育成）を行うことで自主的に学び合うようになっている。

## ③ 「UAをゼロに！」について

- ア 全職員で諸調査結果の分析を行い、課題の共通理解を図り、授業改善を行ったり朝学習等で習熟練習を行ったりしている。
- イ 朝学習や放課後学習、学習コンテストなどで児童生徒の個別の課題が克服できるように取組が進んでいる。

## ④ 「学びの連続性」について

- ア 家庭学習のガイダンスや手引きの配付で、児童生徒が家庭学習に主体的に取り組むようになってきている。
- イ めあてや振り返りの記述、モデルノートの紹介等手立てを組み、授業と連動した家庭学習の充実に図っている。

## (3) 実践を通して各校で育成された（育成が難しかった）資質・能力と手立てについて

- 教師の主発問、切り返し発問をもとに児童に深く考えさせる学び合いをとおして児童の思考力・判断力・表現力が向上した。
- 少人数での学び合いでは、多様な考えに触れることができず、学び合いが深まらない。
- 根拠をもとに相手に分かりやすく端的に話すことに課題がある。

## 5 諸調査結果等の結果考察（児童生徒及び授業者の変容）

## (1) 児童生徒が主体となる授業改善に関する指標（岩手県学習定着度状況調査における肯定的回答）

## 【考察】

- 本学区の2つの視点で授業を行ってきた結果、昨年度に比べても目標値を上回る結果となった。
- つまづきに応じた授業改善については、個に応じた支援のあり方を考えながら授業改善していかなければならない。
- 中学校の家庭での自主学習の取組割合が低かった。宿題と自主学習の量と質について考えて行く必要がある。

指 標		目標値	R 5 本市	R 3 学区	R 4 学区	R 5 学区
① 意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	小	84.9	81	95	83	92
	中	81.2	85	98	94	96
② 授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	小	84.7	86	90	100	95
	中	84.0	87	89	94	95
③ 学校の授業がよく分かる児童生徒の割合	小	94.0	88	98	91	97
	中	81.0	78	86	90	83
④ つまづきに対応した授業改善が行われていると感じている児童生徒の割合	小	89.0	87	95	91	88
	中	92.0	93	94	92	78
⑤ 学校の宿題だけでなく、家庭において自主学習に取り組んでいる児童生徒の割合	小	70.0	75	-	-	90
	中	65.0	60	-	-	48

※ この「学区」は、本中学校区の数値

## (2) 学校の組織的な取組に関する指標（岩手県学習定着度状況調査における「1番回答」の割合）

## 【考察】

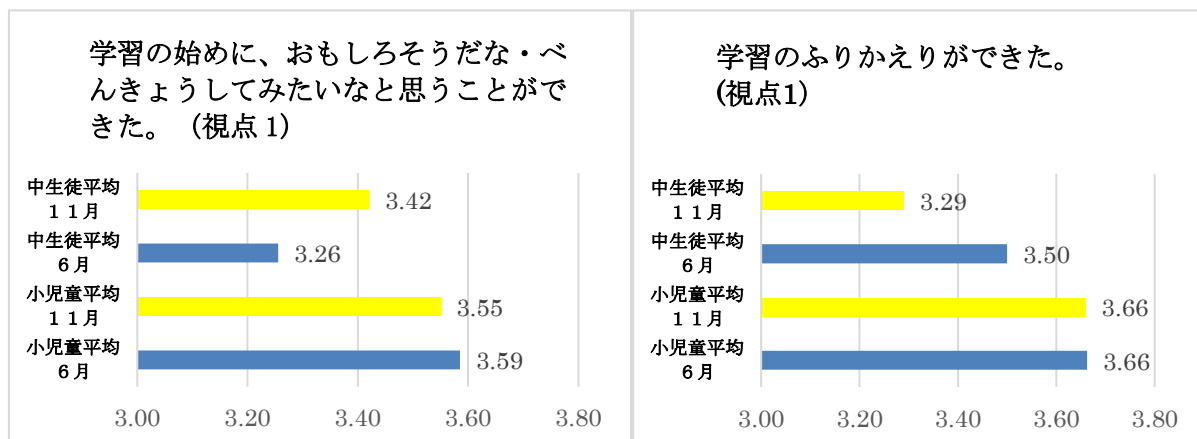
- 組織的な取組については、どの項目も目標値に届かなかった。特に「言語活動の充実」については本学区の視点の一つとなっているので、各校の取組改善に期待したい。
- つまづきに応じた授業改善や家庭学習の自主学習については、(1)と同様の結果となっている。本学区の課題として捉え、諸調査結果を活用した授業改善、家庭学習の充実に取り組む必要がある。

指 標		目標値	R 5 本市	R 3 学区	R 4 学区	R 5 学区
①児童生徒の資質・能力の向上に向けて、「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいますか。	小 中	100		-	-	60
②授業研究会では、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力について協議を行っていますか。	小 中	100		-	-	80
③教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の指導の充実及び徹底を図っていますか。	小 中	100		-	-	60
④調査結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまづきに着目した授業改善を行っていますか。	小 中	100		-	80	60
⑤学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。	小 中	100		-		60

※ この「学区」は、本中学校区の数値

(3) 学校区のアンケート等

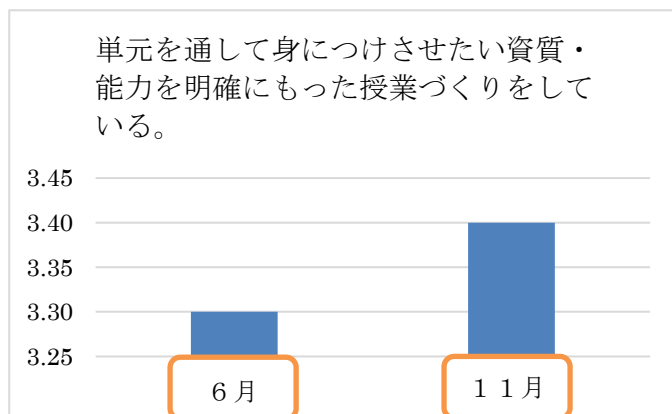
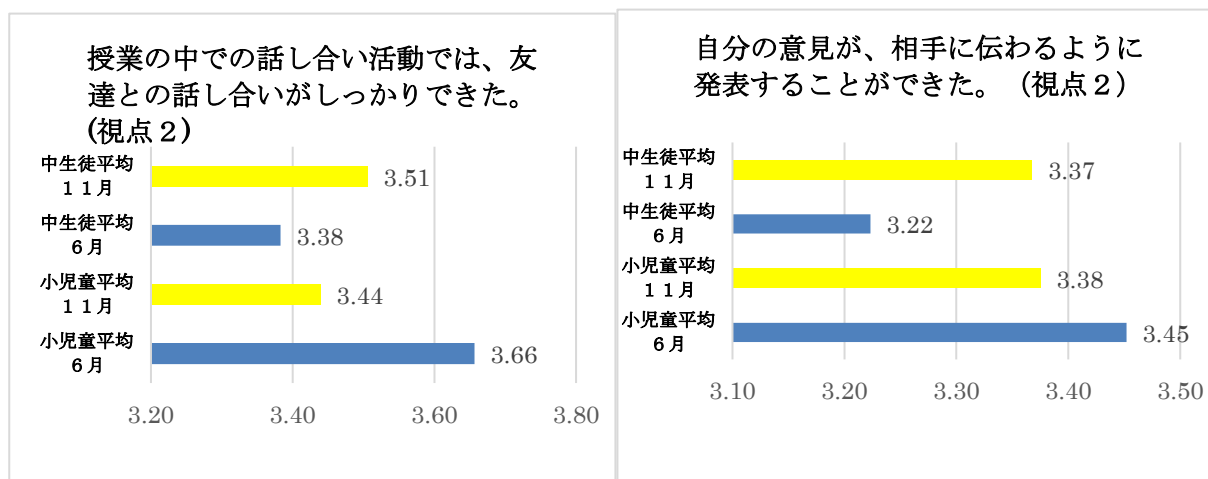
《視点1》「学習意欲の向上」(5段階評価の平均値)



〈考察〉

- ・ 中学校生徒の導入時の学習意欲の向上の値がよくなった。中学校で行ってきた「興味関心をひく・挑戦心が湧く・協同的な活動を必要とする課題設定」を教職員が共通して取り組んできた成果である。
- ・ 学習の振り返りについては、小学校で高い水準のままである。振り返りの観点を示して各校で日常的に振り返りを行ってきた成果と捉えている。

《視点2》「言語活動の充実」(5段階評価の平均値)



教師用アンケート結果より

〈考察〉

- ・中学校において言語活動の充実について生徒の意識の向上が見られる。引き続き、授業の中で視点やねらいを明確にもって、ペアやグループなどの話し合い活動を進めていきたい。
- ・小学校においては、児童の意識がやや薄れている。複式指導行っている小学校が多く、間接指導時の学び合いの際に教師の見取りが少し足りなかったことが要因として考えられる。
- ・今年度「単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にもった授業づくり」を行うことを意識し、全小中学校で取り組んできた。教師の意識調査も11月は、6月に比べて数値が向上している。改めて「資質・能力が身に付いたのか」を意識しながら授業実践を積み重ねてきた成果である。

## 6 成果（○）と課題（●）

- 導入時の工夫（児童のことで ICT を活用して 興味関心を高めて等）を行ったり、単元や単位時間のゴールを明確にしたりするなど、児童生徒の学習意欲を向上させる手立てについて各校の実践から明らかになった。
- 単位時間や単元を通して付けたい資質・能力を明確にもって授業する先生が増えてきた。
- 言語活動の充実のために複式指導での間接指導・直接指導で有効な手立てが見えてきた。
- 単元を通して身に付けたい資質・能力を意識した単元構想とそのための言語活動の充実を行う。
- 児童生徒が主体的に学び合う授業づくり

複式指導では・・・間接指導時の学び方、直接指導における学びの深め方  
一斉指導では・・・単元や本時において児童生徒が、主体的に学ぶ授業づくり

## 7 次年度学力向上取組の方向性

- (1) 育成を目指す資質・能力（学区で、あるいは各校で）  
「学習活動を通して、自分の考えをもち、自らの言葉で表現する児童・生徒」
- (2) 授業改善の2つの視点と目指す授業像について

### 視点1 「主体的な学び」

目指す授業像：児童生徒が主体的に課題解決に取り組めるような授業  
ア 複式指導では・・・間接指導時の学び方、直接指導における学びの深め方  
イ 一斉指導では・・・単元や本時において児童生徒が、主体的に学ぶ授業づくり

### 視点2 「言語活動の充実」

目指す授業像：身に付けさせたい資質能力を明確にし、目的的な言語活動を位置付けた授業  
ア 「何を」「どのように」話し合わせるかを明確にするとともに、聞く、話すなど双方向の学び合い活動の場を設定する。(a)  
イ 根拠・理由を持って書いたり、話したりするために、自力解決やまとめなどで書く活動を取り入れる。(a, b)

## (2) 次年度の重点取組（案）

### ① 「視点1」について（手立て） ※検討中

- ア ～のために ～をする。
- イ ～することで ～を実現する。
- ウ ～を通して～の達成を図る。

### ② 「視点2」について（手立て）

- ア 「何を」「どのように」話し合わせるかを明確にするとともに、聞く、話すなど双方向の学び合い活動の場を設定する。(a)
- イ 根拠・理由を持って書いたり、話したりするために、自力解決やまとめなどで書く活動を取り入れる。(a, b)

- ② 「UAをゼロに！」について
  - ア 諸調査結果等の分析を通して、児童生徒の実態を職員全員で共通理解し、授業改善に生かす。  
(a、b)
  - イ アシストシート・ICTを活用し個別最適化された課題を提示することですまずきに対応する。  
(c)
  
- ④ 「学びの連続性」について
  - ア 指導と評価の一体化の観点から、単元や本時における評価規準をはっきりとした授業づくりを行う。
  - イ 授業と連動した家庭学習の充実を図る。